



**60WクラスハイパワーLED電球**  
「スポット光」タイプと「拡散光」タイプがあり、それぞれに白色系と電球色系をラインナップ。  
(写真は白色系)  
\*消費電力7.5W・口金E26・設計寿命40,000時間

60Wクラススポット光タイプ商品参考例

	品番号	消費電力	口金	配光角	設計寿命
スポット光タイプ					
(白色系)	ECL-HPL60WH	7.5W	E26	40度	40,000時間
(電球色系)	ECL-HPL60WHH	7.5W	E26	40度	40,000時間
拡散光タイプ					
(白色系)	ECL-HPL60PWH	7.5W	E26	180度	40,000時間
(電球色系)	ECL-HPL60PWHH	7.5W	E26	180度	40,000時間



**蛍光灯形LED照明(昼光色系・40W型)**  
口金(G13)で既存の蛍光灯からの置き換えに対応。  
取り替えてすぐに使える電源内蔵タイプをラインナップ。  
\*消費電力24W・口金(G13)・設計寿命50,000時間

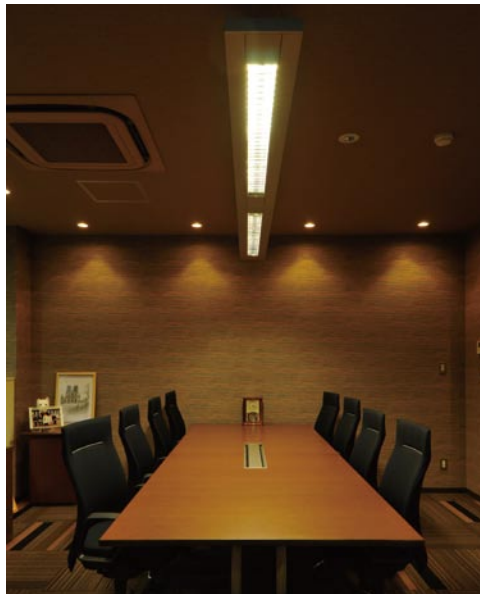
お問い合わせ  
エコリカLED事業部 06・6631・5308 まで



株式会社 エコリカ  
06・6630・3301  
〒556-0001 大阪市浪速区下寺1-6-7 http://www.ecorica.jp



「寿命の長いLEDの活用は、資源を大切にすることにつながります。次世代に素晴らしい地球環境をパトタッチしていくことは、私たちの使命ですね」と宗廣社長。



重厚なテーブルと椅子を配置した役員会議室。ここで、未来の環境を照らす戦略が生まれる。



白妙菊やハツキカズラなど、楚々とした草花が寄せ植えされた屋上庭園。さらに時間が経てば、もっと美しい表情を見せてくれるだろう。



蛍光灯特有のちらつきがなく、紫外線をほとんど出していないので虫も寄らない。



敷き詰められたソーラーパネルは20枚。最大3.8KWの発電能力があるそうだ。

インクジェットプリンタ用インクカートリッジのリユース・リサイクル事業で、日本のトップシェアを誇る、地元大阪の環境貢献型企業エコリカ。  
2009年4月には、次世代の明かりとして大手家電メーカーがしのぎを削るLED照明事業に参入した。続いて11月には、果敢な挑戦の一環として、LED照明をほぼ9割まで駆使した、先進のエコロジー新社屋を竣工。  
今、国内外から大きな期待が寄せられているエコリカ代表取締役の宗廣宗三さんに、ベンチャー企業としてのLED照明開発への取り組みや、今後の抱負などを語っていただいた。

### 関西の匠の技を結集した環境に優しいエコ性能

LED (Light emitting Diode: 発光ダイオード)。直訳すると「光を発生する半導体」で、最近にわかに注目を浴びている照明分野では、日常に直結する電気代的大幅ダウンと、寿命の大幅アップが実現可能になる。  
「例えば、当社の超低消費電力電球タイプLEDの消費電力は、わずか3W。最大95%の消費電力を節約できるので、10年間使うと約45000円ほど節約できる試算になります。それに伴って

### 心地よい明かりの演出で、人と地球の近未来を創造

電球、蛍光灯、スポットライト、ダウンライトなど様々なタイプのLED照明を、オフィスのブース毎に、適材適所にレイアウトした新社屋は、LED照明をライブで体感できるショールームのようだ。仕事の内容に合わ



新社屋は、大阪市の中心部を南北に走る上町台地の裾野、古寺名刹とビルが林立する新旧融合のロケーションに建つ。

# エコロジー総合ブランドとして、環境の世紀の明日を照らす。株式会社エコリカ

CO2排出量も抑えられ、温暖化抑止面からも大きな効果を期待できます。私たちはこうした観点から、新たな環境保全への取り組みとして、LED照明事業に参入したわけだと宗廣社長。構造がシンプルで、組み立てが簡単。どこよりも美しく見える、と定評の高い商品開発に当たっては、多彩なモノづくりネットワークで繋がる関西地域の匠の技を結集したという。「LED照明で最大のネックといわれる熱処理回路問題を解決するため、独自の工夫が施されていますが、これには東大阪の職人さんの智慧が生かされています。また、光が均一で、蛍光灯に近い明かりを約束するため、高品質LEDチップを採用。これも日本の工業製品を牽引してきた匠の技術に支えられています。」

LED照明といえば、大手家電メーカーを始めとして、ほぼ中国での生産にシフトしているが、エコリカでは、メイン商品は日本での生産にこだわっている。「地場の人たちの協力あってこそLED照明を、品質に対して厳しい日本のユーザーに満足してもらうためにも、メイド・イン・ジャパンは外せません。価格に関しては、私たちが最大限の企業努力を積み重ねていくということだ。」

せて、白色と電球色を使い分けLED照明との比較がしやすいよう、従来の照明を1割ほどミックスさせている。「明かりは五感で感じるもの。そのモデルをここから発信できればと思います。」

商談室はわずか40W。しかし、明るさに不足はない。そればかりか、気持ちほっと落ち着く。「LEDは暗いという思い込みがあるようですが、レーザービームのようにまっすぐ光が飛ぶので、光源の下は想像以上に明るいです。ちらつかない、紫外線をほとんど出さない、素材はリサイクル可能なポリカーボネイトなど。次世代の明かりとしての魅力を存分に持っていますね。」

その特徴を考えると、オフィスはもちろん、博物館、食品・薬品・化粧品工場、病院などへの導入が検討されているのも納得がいく。家庭であれば、まず手始めに、廊下やトイレにおすす。点けっぱなしでも消費電力は低く、防犯灯代わりにもなる。  
太陽光発電も完備した建物は、インテリアのナチュラルな風合いからも、瀟洒なデザイン・スマンションを思わせる。「無理なく省エネができ、しかも快適に仕事ができたり、暮らし環境を楽しんだりできる」と話す宗廣社長の視線の先には、屋上庭園が。「最も身近なスタッフと働きやすい環境を共有しています」。究極のエコ社屋には、人の温もりが溢れていた。